（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	平田　幹夫	所　属	教職センター	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	①4年次（3名）の卒論指導を行う。 ②教育実践ボランティア事業を通して、教員養成段階における学生の実践的指導力を高めるようにする。 ③学生のプレゼン能力を高める授業を行う。 ④教師になっているゼミ卒業生への定期的なフォローアップを行う。 ⑤アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。教員希望ゼミ生に対しては、学校現場に触れる機会を多く持ち、子ども理解と実践的指導力が高まるように指導を行う。 ⑥ゼミの教員希望の学生に対して、教員採用試験に関する情報を提供し、採用試験に関するアドバイスを行う。 ⑦教員志望OB学生（補充教員）に対する支援を行う。	0.32	①4年次（3名）の卒論指導を行った。 ③教育実践ボランティア事業を通して、教員養成段階における学生の実践的指導力を高めるように企画立案実施を行った。 ④学生のプレゼン能力を高める授業及びパワーポイントの指導を行った。 ⑤教師になっている卒業生への定期的なフォローアップを行った。 ⑥アクティブラーニングを取り入れた授業を行った。 ⑦大学院生の論文指導を2名にの学生に対して行った。 ⑧教育実習における学生のメンタル支援を行った（他学部の学生も含む）。
研究	0.20	①日本描画テスト・描画療法学会にて頭発表を行う ②教育実践ボランティアの活動を報告書としてまとめる ③附属学校における教育実習に関するに関する論文を書く ④カウンセリングにおける描画対面法の開発研究を行うために、科研費及び奨学寄付金の獲得を目指す。特に、奨学寄付金においては、不登校の子ども及び保護者への支援を含めた研究であることを個別に説明し獲得を目指す。	0.20	①日本描画テスト・描画療法学会にて頭発表を行う ②教育実践ボランティアの活動を報告書としてまとめる ③カウンセリングにおける描画対面法の開発研究を行うために、奨学寄付金を獲得し研究を行った。 ④教職センター紀要に論文を投稿した。
社会貢献	0.25	①教員免許更新講習への協力 ②浦添市立教育研究所の運営委員長としてよりよう運営が行えるように取り組む。 ③県及び市町村教育委員会及び小中高学校での研修会への協力 ④那覇市こども政策審議会委員長として待機児童及び認定こども園問題に取り組む ⑤沖縄市いじめ問題第三者調査委員会委員長としていじめ問題解決に向けて取り組む　⑥読谷村いじめ問題第三者調査委員会委員長としていじめ問題解決に向けて取り組む ⑦児童生徒・保護者・教員へのカウンセリングを行う	0.25	①教員免許更新講習への協力（必修領域、選択領域・描画心理学）を行った。 ②浦添市立教育研究所の運営委員長として、充実した研修運営が行えるように取り組んだ。 ③県及び市町村教育委員会及び小中高学校での研修会で講師を務めた。 ④那覇市こども政策審議会委員長として第2期那覇市子ども・子育て支援事業計画の策定及び待機児童及び認定こども園問題に取り組んだ。 ⑤沖縄市いじめ問題第三者調査委員会委員長（10月まで）として、いじめ問題解決に向けて取り組んだ。 ⑥読谷村いじめ問題第三者調査委員会委員長としていじめ問題解決に向けて取り組んだ。 ⑦児童生徒・保護者・教員へのカウンセリングを行った。
管理運営	0.25	①教職課程実習委員会委員長として教育実習の充実に努める ②教職課程教育実習委員長として、全学の教育実習登録条件見直しを行う ③教職課程教育実習委員長として公立学校教育実習において実習先学校が行っていた実習評価のあり方を見直す。 ④教育実習委員会附属中学校部会長として学校教育実践研究及び教育実習の充実に取り組む	0.23	①教職課程実習委員会委員長（本年度の7月まで）として教育実習の充実に努めた。 ②教職課程教育実習委員長（本年度の7月まで）として、全学の教育実習登録条件見直しを行った。 ③教育実習委員会附属中学校部会長として学校教育実践研究及び教育実習の充実に取り組んだ。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	森　力	所　属	教職センター	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	①1年次の教職に関する講義において、教育の課題や教師の役割について様々な角度から捉え、教職の理解を深めるよう講義内容を工夫する。 ②教職体験を通して、学生の子ども理解及び実践的指導力が高まるよう支援する。 ③講義の中で、ワークショップ等を取り入れた意見交換を行なわせ、問題解決力、コミュニケーション・スキルの育成を図る。　④模擬授業を通して、教材解釈の仕方及び発問・板書の仕方等について考えさせ、授業づくりができるよう講義内容を工夫する。	0.30	①「教職入門」の講義を中心に、学級経営、生徒指導、特別支援教育といった内容について、具体的な学校現場での取組の話を交えながら、教師としてどのように対応していけばいいかを伝えることができた。 ②教職体験Ⅱ及び3年次の附属小教育実習において、学校を訪問し、学生の支援及び観察の仕方について声かけを行った。 ③ほぼ毎時間、講義の後半は、その講義のテーマに基づいたワークショップやグループ討議を行った。問題意識を持って意見交換ができるよう、自分の考えをワークシートに書かせてから取り組ませた。 ④「学校教育実践研究（副免）」の模擬授業においては、模擬授業が効果的に行えるように、模擬授業の前に教材解釈、発問、板書の仕方及び指導案作成の講義を行った。
研究	0.30	①附属小学校の研究において、共同研究者として関わり共同研究を進める。 ②主に算数教育に関する論文を作成する。	0.30	①算数部3名の共同研究者となり、1月の公開研究発表会に向けて、4月から1月まで、10回の授業観察及び授業リフレクションを行った。 ②教職センター紀要論文「明示的な指導に基づく算数科の授業改善」、教職大学院紀要論文「算数科の授業改善に向けた授業リフレクション」を作成した。
社会貢献	0.30	①アドバイザリースタッフ派遣事業等を通して、公立小中学校の校内研修及び授業づくり等の支援を行う。 ②南部広域行政組合教育委員会との連携事業等に参画する。 ③島尻地区算数教育研究会において指導助言等を行う。	0.30	①算数科の校内研修等の指導助言及び指導案作成に向けた授業づくりを、年度24回実施した。宮古島市立教育研究所研究員の算数・数学科の小中連携における研究の進め方について指導助言を行った。 ②年度2回、連携推進会議を計画・調整・立案・実施することができた。前・後期の島尻教育研究所算数科研究員の指導講師を務めた。夏休みに行われた島尻教育研究所短期研修の算数科講座の指導講師を務めた。 ③年度4回、授業観察及び指導助言を行うことができた。
管理運営	0.10	①教員養成運営協議会、共同研究推進委員会附属学校部会の委員として、業務を把握し、適切に業務を遂行する。	0.10	①教員養成運営協議会に参加し、教育実習の登録条件の見直しやリフレクション・デイのあり方等について、今後、検討していくことを確認することができた。共同研究推進委員会附属学校部会の委員として、1月の公開研究発表会に向けて、6回（11月から1月の間）、普段の授業について、授業観察を行った。嘉手納町教育委員会点検・評価の委員として、会議に出席し、令和元年度の点検・評価報告書の作成を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

令和元年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	上江洲　朝男	所　属	教職センター	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	令和元年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	令和元年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	①1年次の教職に関する基本的、基礎的知識と意識高揚を図る。 ②教育実践ボランティア、教職体験を通して、教員養成段階における　学生の実践的指導力を高める。 ③アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。 ④模擬授業や実習への前後指導を通して、指導案の作成や教職への心構えなど、意欲を喚起する。 ⑤全学の教育実習に向けた学校教育実践研究等の評価項目を検討改善する。	0.30	①1年次の教職に関する基本的、基礎的知識と意識高揚を図ることができた。 ②教育実践ボランティア、教職体験を通して、教員養成段階における　学生の実践的指導力を高めることができた。 ③教職入門、学級経営実践等で、アクティブラーニングを取り入れた授業を行うことができた。 ④模擬授業や実習への前後指導を通して、今年度は模擬授業の振り返りシートを作成・活用し、指導案の作成指導や教職への心構えの指導など、教育実習への意欲を喚起することができた。 ⑤全学の教育実習に向けた学校教育実践研究等の評価項目については、「リフレクション・デー」の導入に向けての取り組みなども含め、次年度も引き続き検討改善する。
研究	0.30	①附属中学校の研究において共同研究者として共同研究を行う。 ②附属小学校の国語科と連携して共同研究を行う。 ③教育実践に関する論文を書く。	0.30	①附属中学校の研究において共同研究者として、研究推進会議（週1回）や起用検討会等に参加し、共同研究を行った。 ②附属小学校の国語科と連携して、単元構想、授業づくりから関わり、共同研究を行った。 ③教育実践に関する論文を書き、教職センター紀要に投稿した。
社会貢献	0.30	①アドバイザリースタッフ事業等を活用して、公立の小中学校への支援を行う。 ②県や市町村の協議会等に参画する。	0.30	①アドバイザリースタッフ事業等を活用して、公立の小中学校への支援を90回程度行った。 ②沖縄市教育行政の事務点検及び評価に関する有識者会議や沖縄県子どもの読書活動推進会議の委員として、社会貢献に携わることができた。NARAEネット推進会議のメンバーとして、幼児・児童・生徒への教育の向上を目指して、協議を行った。
管理運営	0.10	①教職課程実習委員会、教育実習委員会、地域教育連携委員会、共同研究推進委員会、教職センター紀要編集委員会の委員等として、業務を把握し、職責を果たす。	0.10	①教職課程実習委員会、教育実習委員会、地域教育連携委員会、共同研究推進委員会の委員等として、業務を把握し、職責を果たした。今年度は改定した全学部向けの「教育実習の手引き」「教育実習の記録簿」、附属学校教育実習向けの「手引き及び記録簿」を活用して実施し、実施後の振り返りのを行い、次年度へ向けての内容、文言等の修正を図った。令和3年度開講予定の「リフレクション・デー」に関する原案作成や他大学への視察などによる情報収集に務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　　**□　学外公表に同意しない。**　　**□　学内外公表に同意しない。**